

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：12102
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：24520271
研究課題名(和文) ブラック・パシフィック・ナラティブ研究

研究課題名(英文) The Black Pacific Narrative

研究代表者

竹谷 悦子 (TAKETANI, Etsuko)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：60245933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アフリカ系アメリカ文学における「ブラック・パシフィック・ナラティブ」の系譜とそれを可能にした環太平洋をめぐる大戦間の地理的想像力を探るものである。本研究では、アフリカ系アメリカ文学/文化が生産した太平洋をめぐる物語を「ブラック・パシフィック・ナラティブ」と名付けた。大戦間に「太平洋共同体」が形成されたが、この太平洋の地域システムと対位的関係をもちながら、アフリカ系アメリカ文学が生成していったのが「黒い太平洋」という想像の共同体である。

研究成果の概要(英文)：My project chronicles the profound shift in geographic imaginings that occurred in African American literature between the World Wars. Specifically, it examines the narrative of what I call the “black Pacific” the literary and cultural production of African American narratives of the Pacific in the face of America’s efforts to internationalize the Pacific and to institute a “Pacific Community,” reflecting a vision of a hemispheric regional order initiated and led by the United States. The black Pacific was imagined contrapuntally to this regional order in the making.

研究分野：米文学

キーワード：アフリカ系アメリカ文学 地理的想像力 環太平洋 帝国 人種

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2003年まで十九世紀アメリカ文学における女性と植民地主義言説の関わりについての研究を積み重ね、その成果を米国のテネシー大学出版局から単行本 *U.S. Women Writers and the Discourses of Colonialism 1825-1861* として刊行した。今回の課題研究は、アメリカ文学におけるマイノリティと帝国主義言説を、新たに「人種」アフリカ系アメリカ文学を基軸として発展させるものとして企図された。

折しも、アフリカ系アメリカ文学研究では、国家の枠組みを超えたトランスナショナルな視座の重要性が説かれていた。批評家ポール・ギルロイは、「ブラック・アトランティック」(黒い大西洋)という超国家的パラダイムを提唱し、その準拠枠は現在までに圧倒的な影響力を持ち続けている。しかし、研究代表者は、西欧を中心とし、アジア・太平洋を周縁とみなす世界観に依存したまま展開されている研究の方向性に疑問を感じ、それを批判的に修正するパラダイムの創出の必要を感じていた。そこから、大戦間のアフリカ系アメリカ文学を環太平洋というトポスに布置することで再解釈を試みるという着想にいたった。アメリカの主導のもと太平洋をめぐる地域システムが大戦間に形成されていたからである。

この研究の方向性は、もう一つ別の意味でも有意義であると思われた。今日まで日本史研究・アメリカ史研究の双方から看過されてきた日米の接点「人種の政治学/詩学を基盤として想起された日本とアメリカ黒人の連帯」については、ここ二十年のあいだに Reginald Kearney (1998年)、Marc Gallicchio (2000年)、古川博巳・古川哲史 (2004年)らの先駆的な歴史学研究によって少しずつ明らかになってきた。しかしそれらの研究は、二国間の関係を背景として記述され、アフリカ系アメリカ作家たちは、そのなかで親日/反日という二項対立へと還元される危険性を孕んでいた。本研究では、国家の枠組みを一旦保留して、環太平洋という文化ネットワークのなかで考察することをめざしたものである。

2. 研究の目的

本研究は、アフリカ系アメリカ文学における「ブラック・パシフィック・ナラティブ」の系譜とそれを可能にした環太平洋をめぐる大戦間の地理的想像力を探るものである。本研究では、アフリカ系アメリカ文学/文化が生産した太平洋をめぐる物語を「ブラック・パシフィック・ナラティブ」と名付けた。大戦間に「太平洋共同体」が形成されたが、こ

の太平洋の地域システムと対位的関係をもちながら、アフリカ系アメリカ文学が生産していったのが「黒い太平洋」という想像の共同体である。

アフリカ系アメリカ文学にブラック・パシフィック・ナラティブの潮流を探り、それが大戦間にどのような複雑な捻れをみせ、変容していくのかを丁寧に跡づけることで、これまでの文学研究に欠落していた系譜を解明すること、そして初の本格的なトランス・パシフィック黒人文学論を単行本としてのまとめることが今回の目的であった。

3. 研究の方法

ブラック・パシフィック・ナラティブの系譜を、さまざまな文化テクスト「演劇、文学、プロパガンダ、旅行記など」を横断するかたちで考察を行った。

またイエール大学バイネック図書館、アメリカ議会図書館、アメリカ公文書館、ニューヨーク公立図書館が所蔵する以下の資料を地道に収集し分析を行った。

イエール大学バイネック図書館

- 1) Walter Francis White and Poppy Cannon Papers, box 24, folders 222-227 (Background materials and notes 1944-1945)
- 2) Walter Francis White and Poppy Cannon Papers, box 24, folders 228 (Articles, drafts, holograph, typescript, and typescript carbon)

アメリカ議会図書館(NAACP Records)

- 1) Walter White, "To the People of Japan, Greetings!" [1942]
- 2) Walter White, "Outline of Article on Axis Propaganda on Racial Issue" [1942]
- 3) Walter White's correspondence with Franklin Roosevelt and the Office of War Information

アメリカ公文書館

- 1) "Japanese Racial Agitation among American Negroes," prepared by Evaluation Section, MID 291.2, Japanese, 4/15/42, Records of Headquarters Army Service Forces, RG 160, entry 196A, box 383
- 2) "Five Months of Axis Propaganda on the Negro Question," May 7, 1942, Records of the Office of Government Reports, RG 44, entry 171, box 1849
- 3) "Axis Propaganda on the Negro for the Intelligence Survey on the 'Harlem Negro,'" May 9, 1942, Records of the Office of Government Reports, RG 44, entry 171, box 1849
- 4) "Axis Propaganda Intended to Undermine Relations between Whites and Negroes," July 21,

1942, Records of the Office of Government Reports, RG 44, entry 171, box 1849

5) Federal Communications Commission, "Radio Report on the Far East, Number 58," November 10, 1944, Records of the Foreign Broadcast Intelligence Service, RG262, entry 34, box 4

6) Federal Communications Commission, "Radio Tokyo: Racial Propaganda to the United States," May 25, 1942, Records of the Foreign Broadcast Intelligence Service, RG 262, entry 45, box 1

ニューヨーク公立図書館

1) Town Hall, Inc. Records, Manuscripts and Archives Division

4. 研究成果

初年度は、ハーレム・ルネサンスの作家であり、全米黒人向上協会 (NAACP) 事務局長をつとめたウォルター・ホワイトの活動に焦点をあて、ブラック・パシフィック・ナラティブとプロパガンダ・マシーンの隣接性を解明した。ホワイトは太平洋戦争中に、戦時情報局 (OWI) に依頼され、ラジオ『自由の声』を通して、日本にアメリカ黒人の声を届けようとした。ホワイトのラジオ原稿 "To the People of Japan, Greetings!" [1942] と、彼のかつての友人であった疋田保一 (外務省嘱託) による『戦時黒人工作』とのテキスト間の「対話」から太平洋共同体をめぐるヴィジョンの隣接性とギャップが浮き彫りになった。

第二年度は、ブラック・パシフィック・ナラティブの系譜の生成に寄与したシカゴ連邦劇場の黒人ユニットによる全二幕の喜歌劇『ミカド』(原作ギルバート&サリヴァン)の翻案『スウィング・ミカド』(1938年)を分析した。このミュージカルは、視覚的にも聴覚的にもサヴォイ劇場の伝統をパロディ化したものであるが、作品の舞台を南太平洋の珊瑚礁島に移し、そこに着物を着た(サヴォイの)英国的日本人の代わりに、アフリカの日本人を配置することで、ニューディール期の連邦劇場は「黒い太平洋」をめぐる物語を形成していった。

さらにこの連邦劇場が生産した「黒い太平洋」を商業版化した『ホット・ミカド』(1939年)の分析も行った。より一層受容可能なフォーマットにパッケージングされ、娯楽として消費された『ホット・ミカド』が、その一方で、取り違えと身分違いの恋の喜歌劇を文字通りミカドの劇 残酷な独裁者の物語へと変容させたことを明らかにした。そして、この「黒い太平洋」の文化スクリプトがいかにか、その後、太平洋戦争中に、反復され、変奏されていくかについて検証した。

また第二年度には、アフリカ系アメリカ作

家 W・E・B・デュボイスが1936年に行った満州国視察旅行を記録した未出版原稿 *Russia and America* を分析した。満鉄総裁松岡洋右とデュボイスとのあいだに形成された共感のネットワークに注目し、米英主導の地域システムと対峙する日本の「東亜の新秩序」, 「大東亜共栄圏」, 「ユーラシア大陸ブロック」との間で、デュボイスがどのような海と大陸の物語を生成して行ったのかを考察した。

最終年度は第二次世界大戦末期のウォルター・ホワイトの活動、とりわけ、『ニューヨーク・ポスト』紙の従軍記者として、1944年末から4ヶ月にわたり、グアムなどの太平洋の島嶼の戦地に赴き取材したメモ、記事原稿、書簡等から、アフリカ系アメリカ人にとっての太平洋戦争の意味を考察した。

以上の研究は、英文の単行本に組み込まれ、その成果を米国ダートマス大学出版局から、*The Black Pacific Narrative: Geographic Imaginings of Race and Empire between the World Wars* として上梓した。

本研究は、今後、冷戦期まで射程を拡大し、航空時代のアフリカ系アメリカ文学における地理的想像力を理解するための "Archipelagic Black Global Imaginary" という概念の導入を試みる。「鉄のカーテン」, そしてアジア大陸で「竹のカーテン」がおりる冷戦期におけるアフリカ系アメリカの地理的想像力の行方は、今後改めて精緻な分析が必要であり、次の単行本で研究をまとめたいたいと考えている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 2件)

1) Etsuko TAKETANI: "“Spies and Spiders”: Langston Hughes and Transpacific Intelligence Dragnets," *Japanese Journal of American Studies* 25 (2014): 25-48. 査読有

2) 竹谷悦子: 「ブラック・ユーラシア—満鉄の鉄路から読む W・E・B・デュボイス—」『多民族研究』第7号 (2014年) 26-36頁。査読無

[学会発表](計 4件)

1) 竹谷悦子: 「ブラック・パシフィック・ナラティブ—大戦間の地理的想像力とアフリカ系アメリカ文学—」科学研究費・基盤研究 (B) 「モンロー・ドクトリンの行為遂行的効果と 21 世紀グローバルコミュニティの未来」共同研究会、成蹊大学(東京都武蔵野市)、2014年1月13日。

2) 竹谷悦子: 「連邦劇場のブラック『ミカド』—ニューディール政策と黒い太平洋—」日本アメリカ文学会東京支部3月例会、慶応大学

三田キャンパス（東京都港区）2013年3月23日。

3)Etsuko TAKETANI: “Langston Hughes as a Soviet Spy: Life Writing in the Cold War Era,” 筑波アメリカ文学会例会、筑波大学 東京キャンパス文京校舎（東京都文京区）2012年9月9日。

4)竹谷悦子: シンポジウム(『カウンター・グローバルizm—民族を超えたネットワーク』)「鉄路から読む W・E・B・デュボイス—グローバルな陸の時空間としてのブラック・ユーラシア—」多民族研究学会、第18回全国大会、青山学院女子短期大学（東京都渋谷区）2012年7月28日。

〔図書〕(計 1件)

1)Etsuko TAKETANI: *The Black Pacific Narrative: Geographic Imaginings of Race and Empire between the World Wars*. Hanover, NH: Dartmouth College Press, 2014. 266pp.

6. 研究組織

(1)研究代表者

竹谷 悦子 (TAKETANI, Etsuko)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：60245933